GM 鶴牧-3 環の会

# 第 26 回クラシックを楽しむ会

2015 年 10 月 18 日（日）18:00～22:00

## 歌劇「ばらの騎士」（R.シュトラウス）

オクタヴィアンとゾフィー、若い二人に恋を譲り、去りゆく元帥夫人

会場等：ザルツブルグ祝祭大劇場
R.シュトラウス生誕 150 年記念公演
（2014 年 8 月 14 日）
楽団等：ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、
ウィーン国立歌劇場合唱団、
ザルツブルク音楽祭児童合唱団
指揮　：フランツ・ウェルザー・メスト
演出　：ハリー・クプファー
出演　：クラッシミラ・ストヤノヴァ　（元帥夫人）
ギュンター・グロイスベック　（オックス男爵）
ソフィー・コッシュ　（オクタヴィアン）
モイツァ・エルトマン　（ゾフィー）
アドリアン・エレート　（フォン・ファーニナル）
ウィープケ・レームクール　（アンニーナ）
その他

「銀のばら」を届ける

クラッシミラ・ストヤノヴァ
（元帥夫人）

ソフィー・コッシュ
（オクタヴィアン）

ギュンター・グロイスベック
（オックス男爵）

モイツァ・エルトマン
（ゾフィー）

**あらすじ**

まだ色香の残る中年の元帥夫人。夫不在の館で若い愛人オクタヴィアンと一夜をすごす。情事の余韻が残る翌朝、従兄弟のオックス男爵が闖入。婚約者ゾフィーに銀のバラを届ける「ばらの騎士」の紹介依頼が目的だ。元帥夫人はとっさにオクタヴィアンを推薦。

結納の日、オックス男爵の下品で失礼な振る舞いにゾフィーは「バラの騎士」オクタヴィアンに救いを求め、二人は惹かれあう。オックス男爵のこれまでの悪行が暴かれて婚約は破棄。元帥夫人はこの事態に身を引く決心をし、オクタヴィアンとゾフィーは晴れて結ばれる。

**第 27 回クラシックを楽しむ会（予告）**

タイトル：**歌劇「リゴレット」（ヴェルディ）**
11 月 15 日（日）17 時 30 分開場、18 時上映開始
世紀の歌声、パヴァロッティ、グルベローバァと、シャイー率いるウィーン・フィル。オペラの舞台イタリア・マントヴァ地方の実映像は必見。
12 月以降は、オペラ座バスチーユ劇場の「夢遊病の女」、グルックの「オルフェオとエウリディーチェ」などを予定。

# あらすじ

**【時と場所など】**

18 世紀初め、女帝マリア・テレジア統治下のウィーンの上流社会。なお、本公演の演出は初演当時の1911 年頃に設定。

**【登場人物】**

**元帥夫人またはドイツ語でマルシャリン**

32 歳以上にはなっていない、まだ十分に若いオーストリア帝国陸軍元帥ヴィルデンブルグ侯爵夫人。親戚の若いオクタヴィアンと愛人関係にある。

**オクタヴィアン伯爵**

17 歳の美少年で元帥夫人の愛人。「ばらの騎士」として金持ち令嬢ゾフィーと出会って恋に落ち、最後には彼女と結ばれる。女装して元帥夫人の小間使いの女性マリアンデルを演じる。

**オックス男爵（元帥夫人のいとこ）**

元帥夫人のいとこで貴族を鼻にかけている 35 歳位の田舎者。性格は野卑、傲慢、好色漢でケチだが臆病者。その強烈なキャラクターから、元帥夫人とともに、このオペラの主役と目されている。

**ゾフィー（ファーニナルの一人娘）**

修道院を出たばかり。父親の意向でオックス男爵の婚約者となる。貴族社会の生活を夢見ていた少女は現実のオックス男爵に失望し、若い「ばらの騎士」オクタヴィアンに助けを求める。

**フォン・ファーニナル**

以前に妻を無くした成金の新興貴族。一人娘のゾフィーをオックス男爵と結婚させて貴族としての立場の強化を目論む。

**【第 1 幕】 元帥夫人の寝室**

陸軍元帥夫人マリー・テレーズは、夫が不在の館で、若い恋人オクタヴィアンと甘いまどろみのなか朝を迎える。そこに元帥夫人の従兄オックス男爵がやってくる。新興貴族ファーニナルの娘ゾフィーと婚約するというオックスは、婚約者に銀のばらを贈る儀式の使者″ばらの騎士″を誰にしたらいいか相談しに来たのだ。逢瀬の現場を見られてはまずいと大慌ての 2 人だが、もう逃げられず、オクタヴィアンはかわいらしい小間使いマリアンデルに変装。女たらしのオックスは元帥夫人に相談しながらも小間使いが気になる様子。元帥夫人はオクタヴィアンを″ばらの騎士″に推薦する。その後、元帥夫人はひとり思いにふけり、年齢を重ねることの無常を思う。

**【第 2 幕】 ファーニナル家の広間**

″ばらの騎士″としてゾフィーに銀のばらを届けに来たオクタヴィアンは、一目で彼女と恋に落ちてしまう。オックス男爵が現れるが、彼のあまりにも無作法な態度にゾフィーは結婚を嫌がり、オクタヴィアンは婚約を取り消すようオックスに申し出る。しかしオックスが相手にしないため、オクタヴィアンは剣を抜く。オックスも剣を手に取るが、すぐにオクタヴィアンの剣の先が腕に当たる。負った傷はほんのかすり傷だが、オックスは泣きわめいて大騒ぎ。そこにマリアンデルから逢引の誘いの手紙が来て、オックスはすっかりご機嫌に。

**【第 3 幕】 料理店※の怪しげな特別室**

逢引の場の安宿※の一室には、オックスを懲らしめるための罠を仕込み、オクタヴィアンはマリアンデルに変装して準備万端。何も知らないオックスは浮足立ってやってきて″彼女″を口説こうとするが、いい雰囲気になろうというとき、幽霊が現れ、「彼の子」と称する子を連れた女や、警官が来て大騒動。すっかり追い詰められたオックスは婚約を破談にすることを了承する。そして元帥夫人は身を引き、オクタヴィアンとゾフィーを祝福する。

ウィーン近郊の「ガストハウス」、これは料理店

※1. 「あらすじ」の内容は新国立劇場のページを参考にしている。

※2. 第 3 幕「料理店」は「居酒屋」、「旅館」、「宿屋」とも。
台本は「ガストハウス」。どう訳すかは文脈による。

# 参考資料

## 歌劇「ばらの騎士」こぼれ話

### 「ばらの騎士」誕生の経緯

R.シュトラウスは前衛オペラで成功していたが、18 世紀のモーツァルトのような古典的喜劇オペラを書きたいと考え、「フィガロの結婚」から元帥夫人とオクタヴィアンが生まれ、「ドン・ジョヴァンニ」からオックス男爵が生まれた。オペラの仮の題名を「オックス」とし、有名な「ばらの騎士のワルツ」もオックス男爵のテーマ曲として作曲。しかし最終的に妻※の指示で「ばらの騎士」と改題した。なお、この作品を「三幕からなる音楽のための喜劇」とし、「歌劇」、「楽劇」とは呼んでいない。

※ソプラノ歌手で激しい性格のパウリーネ。彼女の叱咤激励のおかげで数々の名作が生まれたとも。

### 元帥夫人とオックス男爵の人物像

元帥夫人は「32 歳以上にはなっていない、まだ充分に若い女性。しかし、ときたま打ち沈んでいるときなど、17 歳のオクタヴィアンと比べて、自分を醜い老婆と感じたりする。 ・・・悲劇的に人生に別れを告げるといったように感傷的に振る舞うことができず、つねに典雅で、軽やかで、片方の瞳に涙をためるといった、いかにもウィーン人らしい風情を示す」粋な女性。一方オックス男爵については「35 歳くらいの美男子で、粗野だがとにかく貴族。内面的にはいかがわしくても、少なくとも外見は立派な風采をしている」と作曲者自身が語っている。

### 使者「ばらの騎士」は創作

日本風に言えば新郎側から新婦側に結納の「銀のばら」を届ける使者。台本作者ホフマンスタールが「オクタヴィアン」のために創作した架空の風習である。

オクタヴィアン役は「フィガロの結婚」のケルビーノ役とともに、女声によってうたわれる男の役柄で**「ズボン役」**と呼ばれる。オクタヴィアン役は、男の扮装をした女声歌手がさらに女のマリアンデルに変装する。性的な倒錯感を高める手の込んた工夫といえる。

### 第 1 幕開幕前、真っ暗な緞帳の裏側で

R.シュトラウスは近代オーケストラの表現力を最大限に駆使して交響詩の傑作のかずかずを作曲。彼はオーケストラのひびきだけですべての人物や事象を物語ることができる。

この歌劇の開幕前に演奏されるのは導入の音楽。真っ暗な緞帳の向こうで何がおこなわれているか。「4 本のホルンによる雄たけびのような響き、次第に切羽詰まった表情を募らせ、頂点に達したところで一気に減衰。それに対する優しい表情の音楽はオクタヴィアンの性的快感とそのあとの元帥夫人の優しい愛情表現を物語っていると理解」できる。(情報源は黒田恭一「オペラへの招待」)

### 「ばらの騎士」初演は空前の大成功

初演は第 1 次世界大戦勃発前※の 1911 年、ドイツのドレスデン宮廷歌劇場。ベルリン・ドレスデン間で臨時特別列車「ばらの騎士」号が運行されたほどの大成功で再演も 50 回に及んだ。続けてベルリン宮廷歌劇場、プラハ歌劇場、バイエルン宮廷歌劇場、ミラノのスカラ座など主要な歌劇場でも上演された。

※本公演の 100 年前、1914 年にオーストリア=ハンガリー帝国の皇太子夫妻がサラエボで暗殺され、この事件を契機に第 1 次世界大戦が勃発。

### 第 2 幕、男爵にトカイワイン

ゾフィーの父、フォン・ファーニナルがオックス男爵に勧めるトカイワイン。ハンガリー東北地方のトカイ・ワイン地区で作られる貴腐ワイン。フランスのソーテルヌ・ワイン、ドイツのトロッケンベーレンアウスレーゼと並ぶ世界三大貴腐ワインの一つ。貴腐葡萄 100%の極めて貴重なワインは世界でトカイ・エッセンシアだけ。極めて糖度が高くがぶがぶ飲むようなワインではない。

トカイワイン

**フランツ・ウェルザー=メスト**は 2014 年 9 月 5 日にウィーン国立歌劇場音楽監督を辞任。後任は 34 歳になったばかりの**ヤクブ・フルシャ**。2015 年 12 月のシーズンからデビュー。現在はプラハ・フィルハーモニア管弦楽団音楽監督・指揮者、東京都交響楽団首席客演指揮者。